

整理番号 F06619A1

発送番号 272671

発送日 平成13年 9月11日 1 / 2

## 拒絶査定

特許出願の番号	平成11年 特許願 第208139号
起案日	平成13年 9月 4日
特許庁審査官	殿川 雅也 9646 5D00
発明の名称	高密度光記録機器のための適応的な記録方法
特許出願人	三星電子株式会社
代理人	志賀 正武 (外 1名)

この出願については、平成13年 2月16日付け拒絶理由通知書に記載した理由1によって、拒絶査定する。

なお、意見書及び手続補正書の内容を検討したが、拒絶理由を覆すに足りる根拠が見いだせない。

### 備考

出願人は平成13年7月13日付けで手続補正書を提出して、請求項1を「最初のパルス、最後のパルス及びマルチパルス列で構成された記録パルスにより入力データを光記録媒体上に記録する方法において、

- (a) 入力データの現在のマークの大きさと以前及び以降スペースの大きさに応じて記録パルスの波形を制御して適応的な記録パルスを発生する段階と、
- (b) 前記適応的な記録パルスにより前記入力データを前記光記録媒体上に記録する段階とを含む適応的な記録方法。」とする補正を行った。

しかしながら、先に提示した引用文献3（特開平9-81937号公報）の段落番号0002-0003及び図3乃至図4を参照すると、マークの前のスペース長及び記録マーク長、及びマークの後のスペース長及びマーク長の組み合わせに応じて、マーク始端エッジ位置及びマーク終端エッジ位置を、それぞ

続葉有

上記はファイルに記録されている事項と相違ないことを認証する。

認証日 平成13年 9月 7日 経済産業事務官 長谷川 守

続 葉

れ補償するマルチパルス形態の記録信号生成技術が記載されており、この記載に基づいて本願の請求項1に係る発明とすることは、当業者が容易に想到し得るものであるから、出願人の主張は採用できない。

同様の理由により、拒絶理由通知書で既に提示した文献の記載に基づいて、本願の請求項2乃至18に係る発明とすることは、当業者が容易に想到し得るものである。

引用文献3と同様の技術が記載された文献として、他に特開平7-225947号公報を提示しておく。

**OPTICAL DISK RECORDER**

Patent Number: JP9081937  
Publication date: 1997-03-28  
Inventor(s): TAMAI KOJI  
Applicant(s):: NIPPON COLUMBIA CO LTD  
Requested Patent: ☐ JP9081937  
Application Number: JP19950233831 19950912  
Priority Number(s):  
IPC Classification: G11B7/00 ; G11B20/18 ; G11B20/18  
EC Classification:  
Equivalents:

---

**Abstract**

---

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To perform a delicate compensation required for recording an optimum mark for every pattern.

**SOLUTION:** The patterns of an L period equivalent to a space and an H period equivalent to the mark of a recording data signal 102 are detected by counters 1, 2. Then, the compensated recording waveform data corresponding to the detected pattern are read out from a memory 9 storing beforehand the compensated recording waveform data optimum for recording respective patterns of the recording data, and a recording signal 103 optimum for recording the patterns is generated by a shift register 10.

---

Data supplied from the esp@cenet database - I2



## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 入力される記録データ信号に基づいて生成した高周波パルス形態の記録信号に従って断続したレーザ光を光ディスクに照射してマークを形成することによって情報を記録する光ディスク記録装置において、前記記録データ信号からスペースに相当する期間とマークに相当する期間のパターンを検出するパターン検出手段と、

記録データ信号の各パターンの記録に適した補償済み記録波形データを予め記憶する波形データ記憶手段と、

前記検出パターンに従って前記波形データ記憶手段から該検出パターンに対応する補償済み記録波形データを読み出す波形データ読み出し手段と、

読み出された補償済み記録波形データに従って記録信号を生成する記録信号生成手段を備えたことを特徴とする光ディスク記録装置。

【請求項 2】 入力される記録データ信号に基づいて生成した高周波パルス形態の記録信号に従って断続したレーザ光を光ディスクに照射してマークを形成することによって情報を記録する光ディスク記録装置において、前記記録データからマークに相当する期間と該マークの前後のスペースに相当する期間のパターンを検出するパターン検出手段と、

記録データ信号の各パターンの記録に適した補償済み記録波形データを予め記憶する波形データ記憶手段と、

前記検出パターンに従って前記波形データ記憶手段から該検出パターンに対応する補償済み記録波形データを読み出す波形データ読み出し手段と、

読み出された補償済み記録波形データに従って記録信号を生成する記録信号生成手段を備えたことを特徴とする光ディスク記録装置。

【請求項 3】 請求項 1 または 2 において、前記パターン検出手段は、前記記録データ信号のスペース期間及びマーク期間における該記録データの転送クロック信号の数を計数して該記録データのパターンを検出し、前記波形データ読み出し手段と記録信号生成手段は、前記転送クロック信号を連倍した信号に基づいて動作するようにしたことを特徴とする光ディスク記録装置。

【請求項 4】 請求項 1 ～ 3 の 1 つにおいて、前記波形データ記憶手段は、補償済み記録波形データとして高周波パルスのデューティ比を変える記録波形データを記憶したことを特徴とする光ディスク記録装置。

【請求項 5】 請求項 1 ～ 3 の 1 つにおいて、前記波形データ記憶手段は、補償済み記録波形データとして高周波パルスの周波数を変える記録波形データを記憶したことを特徴とする光ディスク記録装置。

【請求項 6】 請求項 1 ～ 5 の 1 つにおいて、前記波形データ記憶手段は、記録データの記録変調方式、記録媒体の種類、データ転送レートの種類に応じて各パターン毎の補償済み記録波形データを記憶し、前記波形データ読

み出し手段はこれらを選択的に読み出して使用するようにしたことを特徴とする光ディスク記録装置。

【請求項 7】 請求項 6 において、前記波形データ記憶手段は、記録データの記録変調方式、記録媒体の種類、データ転送レートの種類に応じて記憶した各パターン毎の補償済み記録波形データの 1 種類を ROM から RAM に移して記憶し、前記波形データ読み出し手段は前記 RAM に記憶した補償済み記録波形データを読み出して使用するようにしたことを特徴とする光ディスク記録装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】 本発明は、記録媒体にレーザ光を照射することによって該記録媒体に情報（マーク）の記録を行う光ディスク記録装置に係り、特に書き換え可能な相変化形光ディスクに対する記録に好適な記録補償回路に関する。

## 【 0 0 0 2 】

【従来の技術】 光ディスクにレーザ光を照射することによって情報（マーク）の記録を行う場合、レーザ光を矩形波の記録データ信号によって直接変調する方式では、熱蓄積効果により、記録マークの先端部に対して後端部が広がって涙形のマークになることが知られている。この現象は、記録するマークが長ければ長いほど顕著に現れ、再生時のジッタやエラーの原因となって再生特性に悪影響を及ぼす。

【 0 0 0 3 】 この対策として、レーザ光を矩形波の記録データ信号により直接変調する方式に代えてマルチパルスに変調する記録方式が提案されている。平成 6 年度光ディスク懇談会資料集 p 1 8 に開示されたパターン適応形補償回路は、マルチパルス変調による改善手段であって、図 3 に示すように、入力される記録データ信号（(1.7) R L L データ）に基づいてマーク（2 T ～ 8 T）及びスペース（2 T ～ 8 T）の組み合わせが図 4 に示すパターンの何れに該当するかを検出し、この検出結果に基づいて始端パルスと終端パルスの位置を決定し、更にこの始端パルスと終端パルスの間にクロック信号に基づいて生成したバースト信号を挿入することにより補償されたマルチパルス形態の記録信号を生成するものである。

## 【 0 0 0 4 】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、このような補償回路による補償は、各パターン毎にそのマークを記録する始端パルスと終端パルスの位置のみであり、各パターン毎に最適なマークを記録するために必要な木目細かな補償を行うことができない。

【 0 0 0 5 】 従って、本発明の目的は、記録データにおけるスペース及びマークの組み合わせパターンの変化に影響されずに正確なマークを光ディスクに記録することができる光ディスク記録装置を提供することにある。

【 0 0 0 6 】 本発明の他の目的は、記録データの記録変

10

20

30

40

50

調方式の種類、記録媒体の種類及びデータ転送レートに  
適応して正確なマークを記録することができる光ディス  
ク記録装置を提供することにある。

【0007】本発明の更に他の目的は、2倍速、4倍速  
などといった数倍速の記録データへの対応が容易な光デ  
ィスク記録装置を提供することにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】本発明は、記録データに  
おけるスペースとマークの各種の組み合わせパターン  
の形態における各マークを正確に記録するのに適したマル  
チパルス形態の記録信号を発生するための記録波形デー  
タを各パターン毎に記憶手段に蓄積しておき、入力され  
る記録データ信号を解析して該記録データが何れのパタ  
ーンに該当するかを検出し、検出したパターンに基づい  
て前記記憶手段から対応するパターンの記録波形デー  
タを読み出してマルチパルス形態の記録信号を生成する  
ようにしたことを特徴とする。

【0009】

【作用】各種パターンにおけるマークを正確に記録す  
るのに適した記録信号を生成するための記録波形デー  
タを記憶手段から読み出してマルチパルス形態の記録信号  
を生成するので、各種パターンに応じたマーク記録のため  
の木目細かな補償処理を容易に行うことができる。

【0010】

【実施例】図1は、本発明になる光ディスク記録装置に  
おけるパターン適応形記録補償回路の一実施例を示すブ  
ロック図である。図1において、入力される記録データ  
信号102は、1.7変調信号(2T~8T)やEFM  
信号(3T~11T)などである。クロック信号101  
は、前記記録データ信号102に同期した基準周期  
(T)をもつ転送クロックである。

【0011】カウンタ1は、前記記録データ信号102  
におけるスペース(L)期間にのみクロック信号101  
をカウントする。同様に、カウンタ2は、前記記録デー  
タ信号102におけるマーク(H)期間にのみクロック  
信号101をカウントする。従って、カウンタ1、2の  
計数值(カウントデータ)によって記録データ信号10  
2のL期間及びH期間が何Tであるかを検出することが  
できる。

【0012】カウンタ1によるL期間の検出及びカウン  
タ2によるH期間の検出が完了すると、タイミングコン  
トロール回路13は、制御信号114を発生して両カウ  
ンタ1、2のカウントデータ104、106を該記録デー  
タのパターンデータとしてFIFOメモリ4に読み込  
ませ、その後、制御信号112によって両カウンタ1、  
2をクリアして次に入力される記録データ信号のパター  
ン検出に備える。このような一連の動作を繰り返し行う  
ことにより記録データ信号102のパターンデータを得  
る。

【0013】タイミングコントロール回路13は、前記

FIFOメモリ4に蓄えられたパターンデータを制御信  
号115によって逐次読み出して出力信号107として  
メモリ5に供給すると共に該タイミングコントロール回  
路13に inputs。そして、このタイミングコントロ  
ール回路13は、出力信号107の上位4ビット( $Q_4 \sim$   
 $Q_7$ )と下位4ビット( $Q_0 \sim Q_3$ )を加算することによ  
り個々のパターンの全周期(L期間+H期間)を出力す  
るのに要する時間を算出し、カウンタ7に供給するロー  
ド制御信号116及びシフトレジスタ10に供給する制  
御信号118を制御する。

【0014】メモリ9は、予め、記録データ信号の各パ  
ターンの記録に最適なマルチパルス形態の記録信号を生  
成するための木目細かな補償済み記録波形データを格納  
した記憶手段である。

【0015】メモリ5は、前記メモリ9に格納された各  
パターンに対する各補償済み記録波形データの中から対  
応する記録波形データを読み出すための先頭アドレスを  
格納しており、前記FIFOメモリ4の出力信号107  
に制御されて該当する先頭アドレスを先頭アドレス信号  
108として出力する。

【0016】カウンタ7は、タイミングコントロール回  
路13からのロード制御信号116に従って前記先頭ア  
ドレス信号108をロードし、その後、クロック信号1  
01の周波数を逡倍回路11で $N_1$ 倍した逡倍クロック  
信号119によりカウントアップしていくアドレス信号  
110を発生する。そして前記メモリ9は、予め格納し  
ている補償済み記録波形データを前記アドレス信号11  
0に従ってパラレル形態の記録波形データ信号111と  
して出力する。シフトレジスタ10は、パラレル形態の  
前記記録波形データ信号111を制御信号118によっ  
てロードし、クロック信号101の周波数を逡倍回路1  
2で $N_2$ 倍した逡倍クロック信号120に従ってシリアル  
形態の信号に変換して出力することで補償された記録  
信号103を出力する。なお、メモリ9の構成が $N$ ワー  
ド $\times$ 1ビットの形態である場合には、このシフトレジ  
スタ10は不要となる。因に、11、12は、クロック信  
号101の周波数を $N_1$ 倍、 $N_2$ 倍の逡倍クロック信号1  
19、120に逡倍する逡倍回路である。

【0017】仮に、記録データ信号102としてEFM  
信号を入力すると、その転送クロック信号101は、  
4.32MHzである。逡倍回路11、12の逡倍率を $N_1$   
=2、 $N_2$ =16に設定しておく、逡倍回路11から  
出力される逡倍クロック信号119の周波数は8.64  
MHz、逡倍回路12から出力される逡倍クロック信号1  
20の周波数は69.15MHzになる。この場合、メモ  
リ9の出力信号111を出力するデータバス幅を8ビッ  
トとすると、そのアドレス信号110及び出力信号11  
1は116nsのサイクルを要し、記録信号103のサ  
ンプルレートは69.15Ms/sとなる。このとき  
は、14.5ns刻みの波形補償が可能となる。また、

E F M信号の全パターンのマークを正確に記録するための補償済み記録波形データを格納するために必要なメモリ9の容量は、約2.3Kバイトであり、メモリ5により指定するアドレス信号108、110は12ビットのバス幅が必要である。

【0018】図2は、記録信号の波形補償の一例を示している。aは補償前の記録信号(3T-7Tパターン)の波形であり、図1に示す記録データ信号102に相当する。bはマルチパルスの周期(周波数)を一定にして各パルスのデューティ比を変える補償を施した記録信号波形を示し、cはマルチパルスの周期(周波数)をマークの終端に近づく程短く(高く)する補償を施した記録信号波形を示している。なお、 $\Delta T$ は、前の記録信号によるマーク記録の熱の影響により当記録信号による記録マークの長さが変動するのを補正するために、該記録マークの始端パルス幅( $t_s = 1.5T$ )を補正する補正量を示す。この補正量は、各記録データのパターン毎に最適値が設定される。

【0019】このように、記録データ信号の各パターン毎に該パターンのマークを記録するための木目細かな最適な補償済み記録波形データを予めメモリ9に格納しておき、記録時には、記録データ信号102のパターンを検出し、検出されたパターン毎に対応する前記補償済み記録波形データを前記メモリ9から読み出して光ディスクの記録に使用することにより、光ディスクには正確なマーク及びスペースを容易に形成することができ、再生時にジッタが極めて少なく、エラーの少ない良好な情報記録再生を行うことができるようになる。

【0020】しかも、このように動作する補償回路は、記録データ信号102の転送クロック信号101に応じて動作して入力する記録データ信号102の転送レートと同等のスピードで補償済み記録波形データをメモリ9から読み出すので、2倍速、4倍速などといった数倍速の記録データへの対応も容易になる。

【0021】なお、この実施例では、メモリ5、9にROMを使用したか、これらのメモリ5、9をRAMに置き換え、記録変調方式や記録媒体の種類毎に最適な補償済み記録波形データ及び該データを読み出すための変換アドレスを格納した別の大容量ROMを設置し、初期化時にこれらの種類を判別して適合する補償済み記録波形データと変換アドレスを該大容量ROMからRAM5、9にロードして使用するようにすることもできる。そして、このようにすれば、記録データの記録変調方式の種類、記録媒体の種類及びデータ転送レートに応じた補正済み記録波形データを選択的に使用してこれらの種類に適応して正確なマークを記録することができるようになる。

【0022】次に、本発明の他の実施例を図5を参照して説明する。図1に示す実施例と共通する構成手段には同一の参照符号を付して重複する説明は省略する。この

実施例は、記録データにおけるマークとその前後のスペースの組み合わせパターンに応じて補償を施す例である。

【0023】FIFOメモリ4は、カウンタ1の出力信号104を直接入力すると共にラッチ3を介して入力する。ラッチ3はタイミングコントロール回路13'からの制御信号113によって制御され、カウンタ1がクリアされる直前のカウントデータを次のクリアまで保持する。従って、カウンタ1によってL期間のカウントが終了した時点では、出力信号106にはマーク(ビット)に相当するH期間のカウントデータが、出力信号105には当該マークに対して前方に位置するスペースに相当するL期間のカウントデータが、出力信号104には当該マークに対して後方に位置するスペースに相当するL期間のカウントデータが得られることになる。

【0024】これらの各データは、1つのパターンの検出結果(パターンデータ)としてタイミングコントロール回路13'からの制御信号114によってFIFOメモリ4に読み込まれる。その直後に、タイミングコントロール回路13'は、制御信号113を発生して出力信号104をラッチ3にラッチさせると共に制御信号112によってカウンタ1、2をクリアして、次の記録データのパターン検出制御処理に移る。FIFOメモリ4の出力信号107'は、メモリ5、6に供給される。

【0025】メモリ6は、メモリ9に格納された全パターンに対応する各補償済み記録波形データの最後を示す最終アドレスを格納しており、FIFOメモリ4の出力信号107'に制御されて該当する最終アドレスを最終アドレス信号109として出力する。

【0026】カウンタ7は、逡倍クロック信号119をカウントしながら昇順するように発生するアドレス信号110をメモリ9とコンパレータ8に供給する。

【0027】コンパレータ8は、メモリ6から入力される最終アドレス信号109とカウンタ7から入力されるアドレス信号110を比較し、2つのアドレスが一致すると1つのパターンに対する補償済み記録波形データをメモリ9から読み出す制御が終了したことを知らせる制御信号117を発生してタイミングコントロール回路13'に供給する。タイミングコントロール回路13'は、この制御信号117が入力されると次の記録データ信号102におけるマークを記録するためのパターンを出力するように制御信号115、116を制御する。

【0028】ここで、記録データ信号102として音楽用CDに使用されているE F M信号を入力すると、その転送クロック信号101は、4.32MHzである。逡倍回路11、12の逡倍率を $N_1 = 2$ 、 $N_2 = 16$ に設定しておくと、逡倍回路11から出力される逡倍クロック信号119の周波数は8.64MHz、逡倍回路12から出力される逡倍クロック信号120の周波数は69.15MHzになる。この場合、メモリ9の出力信号111を出

力するデータバス幅を8ビットとすると、そのアドレス信号110及び出力信号111は116nsのサイクルを要し、記録信号103のサンプルレートは69.15Ms/sとなる。このときは、14.5ns刻みの波形補償が可能となる。また、EFM信号における記録データの検出パターンは729種類になり、これを補償するために必要な記録波形データを格納するメモリ9の容量は約20Kバイトとなる。そして、メモリ5、6で指定するアドレス信号は、15ビットのバス幅が必要となる。なお、複数種類の記録データのパターンを1つの補償済み記録波形データで近似して補償するようにすれば、補償済み記録波形データの量を減少することができる。

【0029】図6は、この実施例における記録信号の波形補償の一例を示している。aは補償前の記録信号(3T-7T-NTパターン)の波形であり、図5に示す記録データ信号102に相当する。bはマルチパルスの周期(周波数)を一定にして各パルスのデューティ比を変える補償を施した記録信号波形を示し、cはマルチパルスの周期(周波数)をマークの終端に近付く程短く(高く)する補償を施した記録信号波形を示している。なお、 $\Delta T$ は、前の記録信号によるマーク記録の熱の影響により当記録信号による記録マークの長さが変動するのを補正するもので、各パターン毎に最適値に設定される。また、記録マークの後方のスペース(NT)の長さに応じて終端パルスの位置とその長さ( $t_e$ )が補正される。

【0030】この実施例も前述した実施例と同様に、メモリ5、6、9をRAMに置き換えて初期化時に必要なデータを別の大容量ROMから選択的にロードして使用するようにすることができる。また、この実施例では、L期間及びH期間の長さを検出するために2つのカウンタを使用した。ラッチ回路を追加することにより、1つのカウンタで両期間の検出を行うようにすることもできる。

【0031】この実施例によれば、前述した実施例と同様な効果が得られることは勿論のこと、記録信号におけるマルチパルスの記録信号波形をマークの前後のスペースを考慮して補償するようにしているので、マーク記録精度を一層向上することができる。

【0032】以上のようなパターン適応形記録補償回路は、再生系を備えた光ディスク記録装置における記録系に適用して実施することもできる。

#### 【0033】

【発明の効果】本発明は、記録データ信号の各パターン毎に該パターンのマークを記録するための木目細かな最適な補償済み記録波形データを予め記憶手段に格納しておき、記録時には、記録データ信号のパターンを検出し、検出されたパターン毎に対応する前記補償済み記録波形データを前記記憶手段から読み出して光ディスクの記録に使用する。従って、光ディスクには正確なマーク及びスペースを容易に形成することができ、再生時にジッタが極めて少なく、再生エラーの少ない良好な情報記録を行うことができる。

【0034】また、記録データの記録変調方式の種類、記録媒体の種類及びデータ転送レートに応じた補正済み記録波形データを選択的に使用してこれらの種類に適応してマークを正確に記録することができる。

【0035】しかも、このように動作する補償回路は、記録データの転送クロック信号に応じて動作して入力する記録データ信号の転送レートと同等のスピードで補償済み記録波形データを記憶手段から読み出すので、2倍速、4倍速などといった数倍速の記録データ信号への対応も容易になる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明になる光ディスク記録装置におけるパターン適応形記録補償回路の一実施例を示すブロック図である。

【図2】図1に示す実施例による記録信号の波形補償の一例を示す信号波形図である。

【図3】従来の光ディスク記録装置におけるパターン適応形記録補償回路の一例を示すブロック図である。

【図4】(1.7)RLLMマークエッジ記録のエッジパターンを示す。

【図5】本発明になる光ディスク記録装置におけるパターン適応形記録補償回路の他の実施例を示すブロック図である。

【図6】図5に示す他の実施例における記録信号の波形補償の一例を示す信号波形図である。

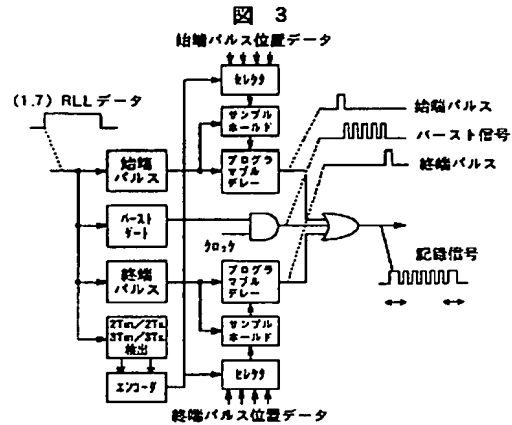
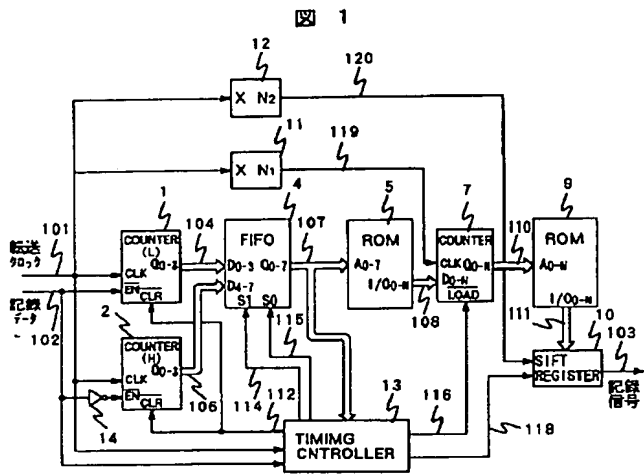
#### 【符号の説明】

1、2、7…カウンタ、3…ラッチ、4…FIFOメモリ、5、6、9…メモリ、8…コンパレータ、10…シフトレジスタ、11、12…逓倍回路、13…タイミングコントロール回路、101…クロック信号、102…記録データ信号、103…記録信号。



【図 1】

【図 3】



【図 2】

【図 4】

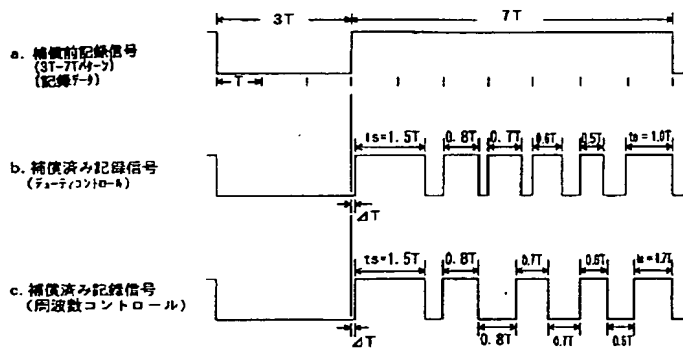
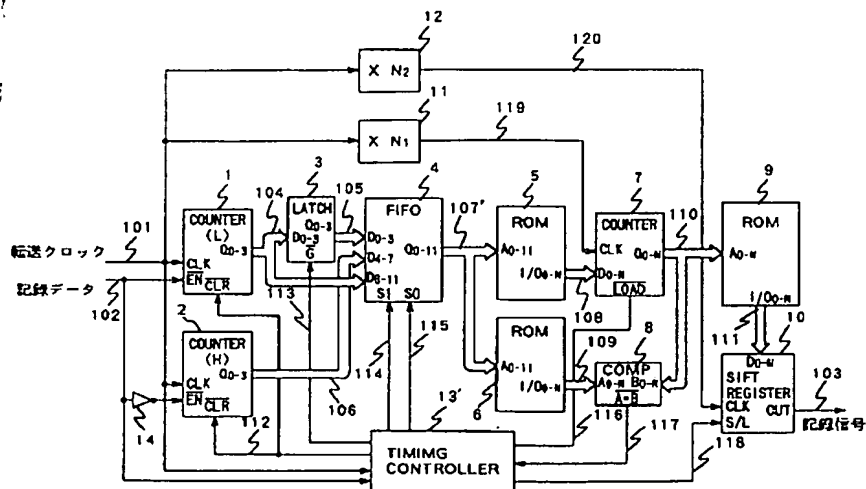


図 4

	マーク始端エッジ	マーク終端エッジ
一律補償条件 25ナノ秒1種類	4T以上 4T以上	4T以上 4T以上
個別補償条件 24ナノ秒8種類	4T以上 3T 4T以上 2T 3T 4T以上 3T 3T 3T 2T 2T 4T以上 2T 3T 2T 2T	4T以上 3T 4T以上 2T 3T 4T以上 3T 3T 3T 2T 2T 4T以上 2T 3T 2T 2T

【図 5】



【図 6】

